

事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

事務事業名	もりおか環境緑化まつり事業			事業コード	0768
所属コード	092000	課等名	公園みどり課	係名	花と緑のまちづくり担当
課長名	及川直文	担当者名	橋本有紀	内線番号	7270
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	快適な都市機能	コード	7
	施策	うるおいのある公園・街路樹の確保	コード	4
	基本事業	私的空間の緑化推進	コード	3
予算費目名	一般会計 8 款 4 項 6 目 花と緑のまちづくり事業 (007-01)			
特記事項	総合計画主要事業			
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度		開始年度	昭和 55 年度
根拠法令等				

(2) 事務事業の概要

市民の手による私的空間の緑化の推進を図るため、市や関係団体と「もりおか環境緑化まつり実行委員会」を組織し、盛岡城跡公園（岩手公園）広場を会場として、花苗や緑化木などの展示即売会、苗木・花苗プレゼント、花と緑の相談コーナー・ハーブ相談コーナー、グリーンコンサート等を内容としたイベントを開催する。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

街の緑が都市化の進展により減少してきたため、市民の手で街に緑を増やし、美しい花をいっぱい咲かせ、花と緑のまちづくりを進めるため、昭和 47 年から開始された。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

出店団体も増加し、イベント内容も充実してきた。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・

(1) 対象（誰が、何が対象か）

市民

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 見込み
A 市の総人口(H22 盛岡市統計書, H23～推計人口平均値)	人	298,348	299,172	299,818	299,818	299,818
B						
C						

(3) 24 年度に実施した主な活動・手順

- ・関係団体打合せ会の開催
- ・実行委員会の開催
- ・出店者会議の開催
- ・イベントに係る出演等への依頼及び調整
- ・ポスター・チラシ作成, 配布
- ・広報への掲載等の広報活動
- ・もりおか環境緑化まつりの開催

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A イベント数	イベント	25	－	29	29	29
B						
C						

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

市民の緑化意識の高揚を図り, 市民の手による宅地内等の私的空間の緑化を推進する。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 来場者数	■上げる □下げる □維持	人	7,000	－	20,000	24,274	20,000
B	□上げる □下げる □維持						
C	□上げる □下げる □維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22 年度実績	23 年度実績	24 年度計画	24 年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	1,700	0	1,700	1,700
	⑤その他()	千円	169	287	218	218
	A 小計 ①～⑤	千円	1,869	287	1,918	1,918
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	300	100	300	300
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	1,200	400	1,200	1,200
計	トータルコスト A+B	千円	3,069	500	3,118	3,118
備考						
平成 23 年度 第 40 回もりおか環境緑化まつりは、東日本大震災直後のため中止しました。						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

結びついている。

理由：もりおか環境緑化まつりは、市民による緑化の普及に寄与しており、私的空間の緑化の推進に結びついている。

② 市の関与の妥当性

妥当である。

理由：私的空間の緑化を推進するためには、広く市民に関心をもってもらう必要があり、市の関与は妥当である。

③ 対象の妥当性

現状で妥当である。

理由：現状で対象は網羅されている。

④ 廃止・休止の影響

影響がある。

その内容：市民の緑化意識の高揚を目的とするイベントがなくなることにより、私的空間の緑化の推進に影響がある。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

向上余地がある。

その内容：イベントの周知や内容をさらに充実していくことにより，来場者を増加させることができる。

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

公平である。

理由：広報やホームページ，ポスターやチラシの活用により，広く市民に周知しており，公平・公正である。

(4) 効率性評価

事業費の削減はできない。

理由：市の予算のみで事業費全体を賄うことが困難であり，苗木・花苗プレゼント用の花苗や福引抽選会の商品などを各種団体から提供をいただき費用を補っている状況から，事業費の削減の余地はない。

人件費の削減は出来ない。

理由：現状でも必要最低限の人件費しかかけておらず，削減できない。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 改革改善の方向性

緑化に関係する各種団体に働きかけを行い，実行委員会の構成団体を増やし，イベントを充実させていく。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

イベントを充実させるための事業費の確保が課題である。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- ☒ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☐ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

本イベントの実施に当たっては，開催当日の天候や桜の開花状況など，来場者数を大きく左右する要因があるが，多様な出展者の参加やイベント内容の充実により，より一層来場者へのサービス向上に努め，賑わいの創出や緑化への啓発を進め，事業を継続することが必要である。